

ポルトガルのあるカルメリットの手紙 (para vos naci より)

## 親愛なる母、イエスの聖テレサ様

単純な言葉であなた様にこの手紙を書くことができることを、光栄に思っています。最初に、あなた様とお会いしたとき、あなた様の一人の娘になるイメージを持つことができませんでしたし、「聖母の鳩舎」に生きるであろうとも思ってもみませんでした。19歳になったとき、あなた様の作品を手取ることになりました。わたしの無知と謙遜のなさに挑みながら、あなた様がわたしに言おうとしていることにおつかりました。そのとき、わたしの進路は大学への道をたどっていましたが…。そのときは、神がわたしに十字架を抱きしめるように望んでいるという考えからは遠かったと思います。なんというわたしの青春時代でしょう。

確かなことは信仰の道を歩み続け、生きている神を受け入れるために後ろのものを捨て去り、神の現存に生きる体験をすることだったのです。後に、カルメルの修道院で修道教育を受けることになり、また禁域生活を守りながら共同生活を行いますが、この人間的な計画が神の御計画であることに気付いたのです。従順によってわたしは神を受け入れるようになり、またまことの信仰の表明への変化により、「神の御言葉がわたしのうちに行われますように」ということができるようになります。わたしの小さな信仰が、あなたの知恵によって、この御業に手を付け始めました。だんだんとこの考えにまとまってきました。その中でほかの選択が消えていき、テレジア的カリスマに息吹かれたこの共同体にとどまることになったのです。

わたしにとって、どれほどの喜びであったかを想像してください。わたしの経験の中でさわやかな春の風を受け取ったのです。どれほど生きたカリスマの中で神と共に生きているでしょうか。どれほど創造的忠実さを理解したでしょうか。